

2021年2月22日 全6頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/2/22号）

個社データ・業界統計・POSデータで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 山口 茜
研究員 和田 恵

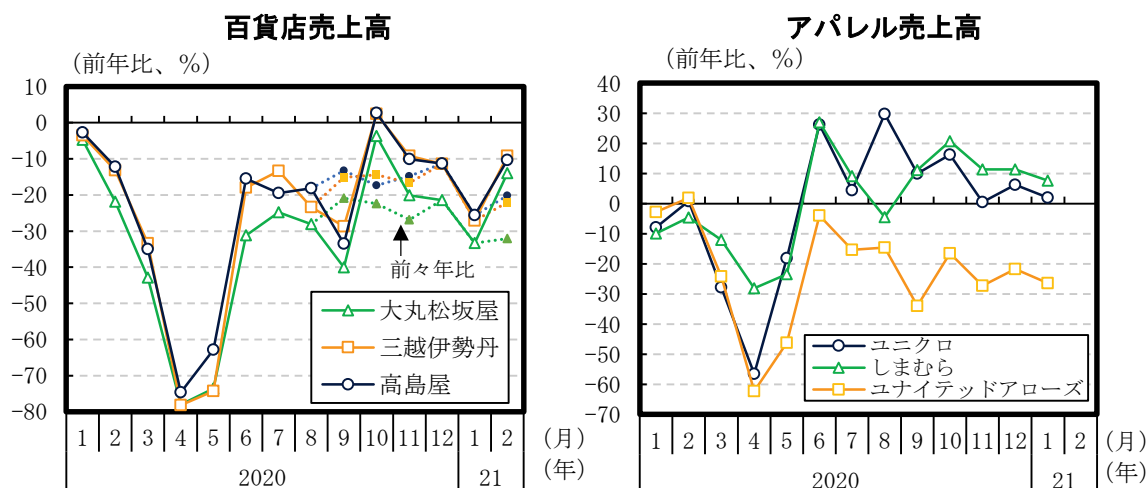
[要約]

- 2月前半の消費は、1月から小幅に減少したとみられる。財消費は緊急事態宣言再発出を受けた巣ごもり需要の高まりが一服し、前月から減少したと見込まれる。他方、サービス消費は飲食店の時短営業や不要不急の外出自粛の継続を背景に、前月から概ね横ばいであったとみられる。なお、今回の緊急事態宣言時の財・サービス消費の落ち込みは、2020年春の前回宣言時に比べて小幅に留まっている。
- 【小売関連】2月前半の大手家電量販店の売上高は1月平均比▲1%程度、スーパーは同▲3%程度、ホームセンターは同▲5%程度といずれも減少した。大手家電量販店ではエアコンや洗濯機の販売が減少した。一方、大手百貨店の売上高伸び率は前年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を除いた前々年比ベースで2~3割減程度と、1月からマイナス幅が小幅に縮小した。
- 【サービス関連】2月前半の新幹線輸送量は、前年比7割減程度と1月から横ばいだった。外食・旅行・娯楽関連消費と連動している小売店・娯楽施設の人出は、緊急事態宣言の再発出以降、低水準での推移が続いている。今後公表される2月の宿泊者数、外食売上、旅客機輸送量でも1月に続き大幅な前年割れが見込まれる。

<小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の2月前半の既存店売上高伸び率は前年のコロナの影響を除いた前々年比ベースで2~3割減程度と、1月（同3割減程度）からマイナス幅が小幅に縮小。
- ◆【アパレル】1月の既存店売上高伸び率は、ユニクロとしまむらが前年比1割弱増とプラス幅が小幅に縮小。ユナイテッドアローズは同3割減程度とマイナス幅が拡大。外出自粛によるおしゃれ着の需要が減少。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2月は14日まで。

2020年9-11月、2021年2月の色付きのマーカーは前々年比（一部は大和総研による試算値）。

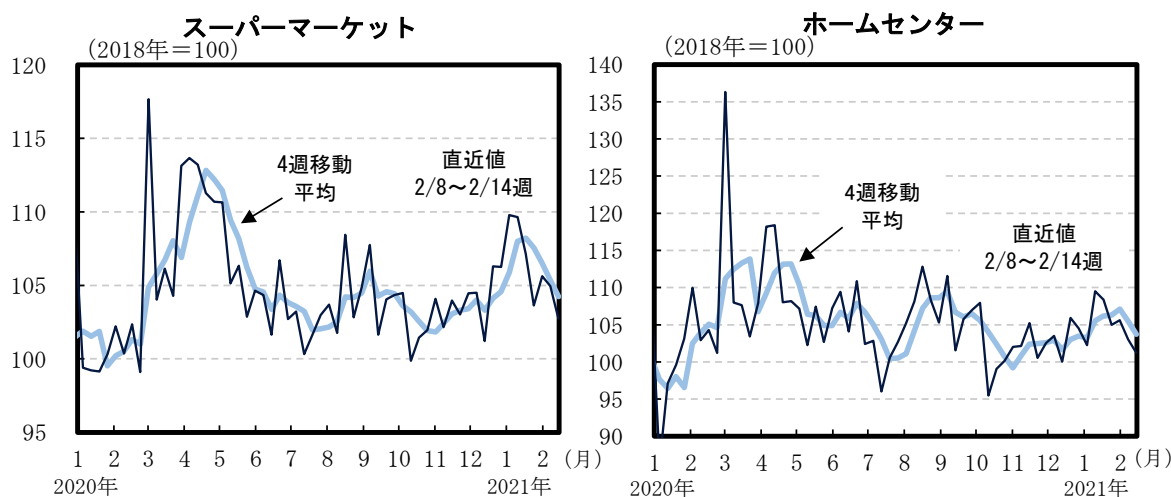
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】2月前半の売上高は1月平均比▲3%程度。（大和総研による季節調整値）。主力の食品売上高も同▲3%程度。
- ◆【ホームセンター】2月前半の売上高は1月平均比▲5%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨、ヘルスケアなどの幅広い品目で売上が減少。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

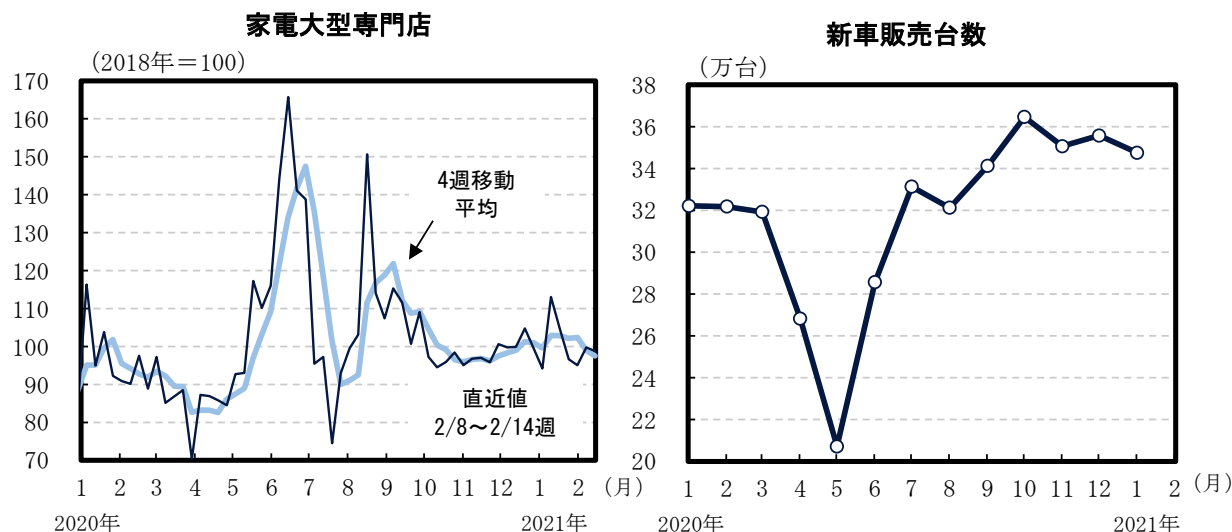


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】2月前半の大手家電量販店の売上高は1月平均比▲1%程度（大和総研による季節調整値）。エアコンや洗濯機の販売が減少した。
- ◆【自動車】1月の新車販売台数は12月から8千台減少し、前月比▲2%程度（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

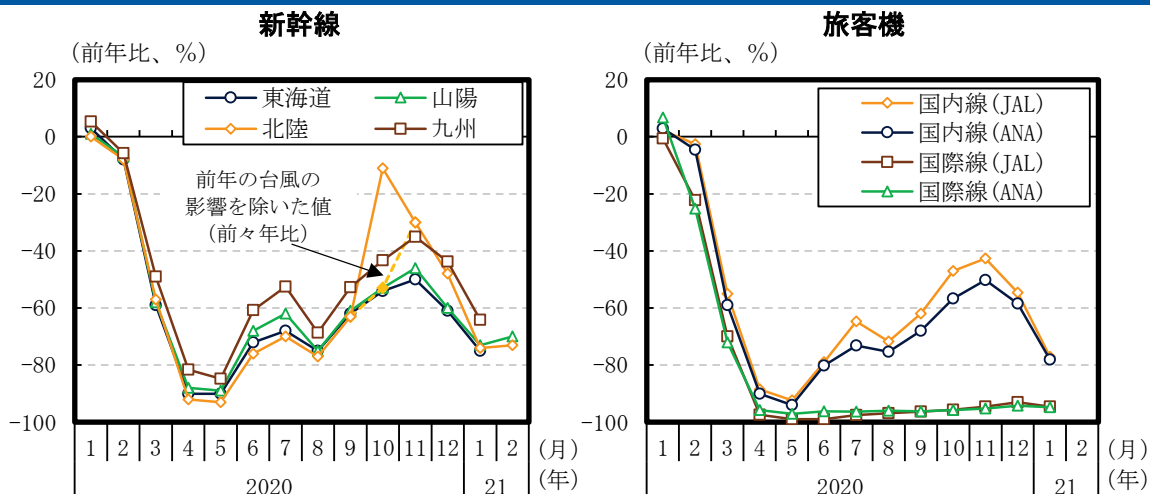
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】2月前半の輸送量は、前年比7割減程度と1月平均から横ばい。
- ◆【旅客機】1月の輸送量は、国内線は前年比8割減程度とマイナス幅が12月から大幅に拡大。国際線は同95%減程度と変化なし。2月の減便率は国内線が1月より上昇、国際線は横ばいであったことから、更なる前年比マイナス幅の拡大を見込む。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



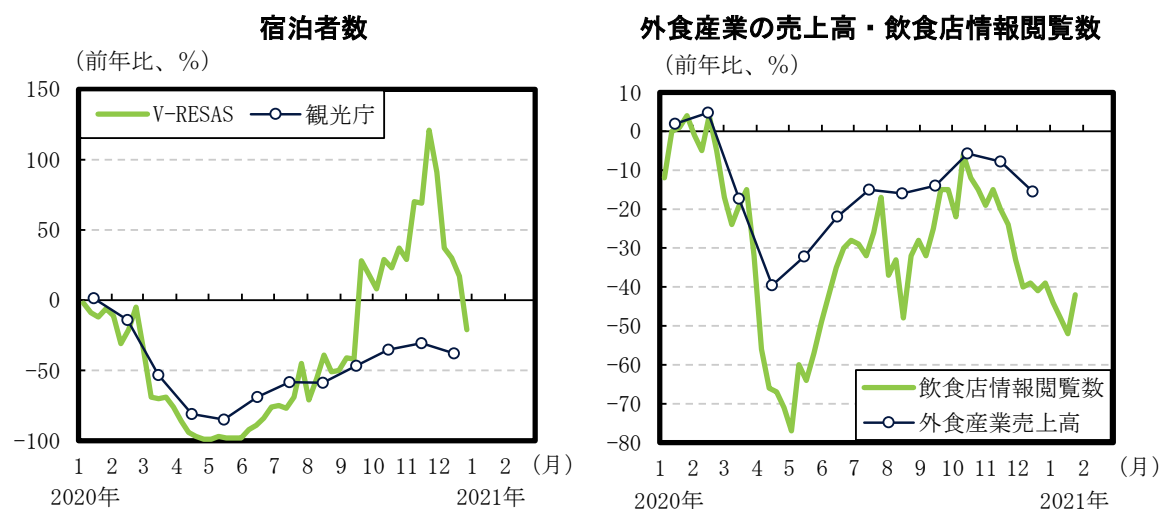
(注1) 新幹線の2021年1月の東海道は28日まで、2月の北陸・山陽は14日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】12月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は前年比4割減程度とマイナス幅が小幅に拡大。新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化し、Go To トラベルキャンペーンが一時停止されたことが重石に。1月は緊急事態宣言が再発出されたことでマイナス幅が更に拡大すると予想。また、2月も宣言の延長により大幅なマイナスを見込む。
- ◆【外食】12月上伸び率は前年比16%減程度と11月からマイナス幅が拡大。12月はGo To Eat キャンペーンの制限や一時停止のほか、営業時間短縮要請の継続や感染拡大による忘年会の自粛等が重石に。1月はV-RESAS等のデータに基づく、マイナス幅が更に拡大すると予想。また、2月も緊急事態宣言の延長により大幅なマイナスを見込む。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・客数



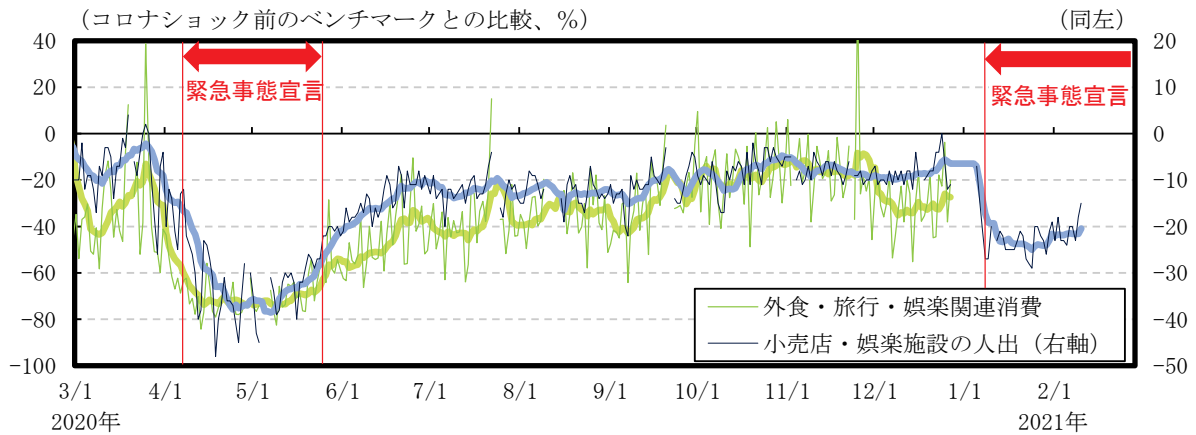
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

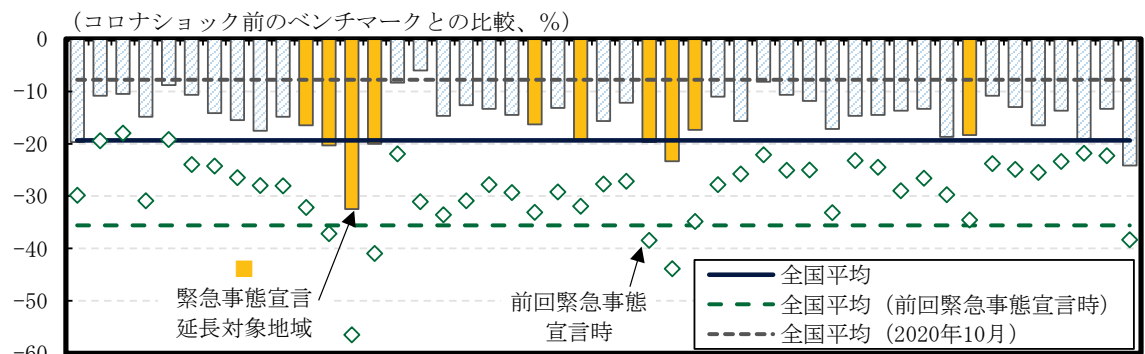
<参考：人出・高速道路交通量・第3次産業活動指数>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出と外食・旅行・娯楽関連消費



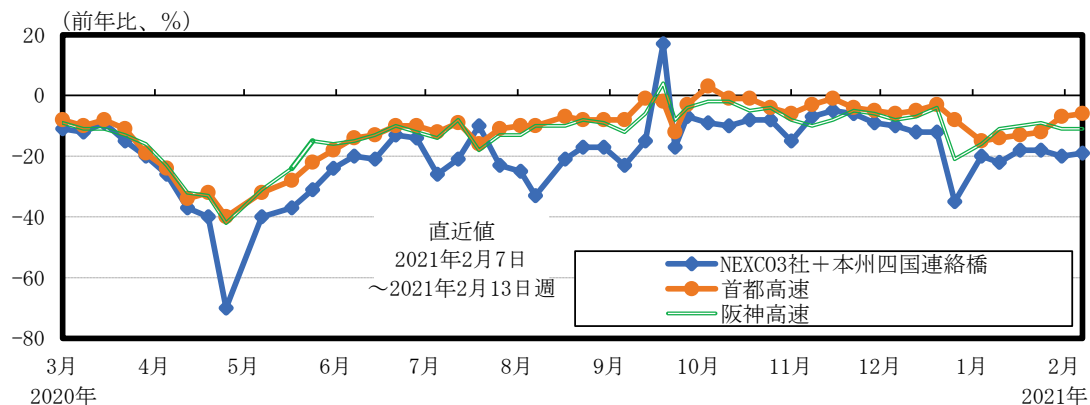
(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。
 月～金曜日の祝日とお盆(2020/8/10～14)、年末年始(2020/12/28～2021/1/4)のデータは除いている。
 (出所) 総務省統計、Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出 (2/10～16 平均、都道府県別)



北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖海森手城田形島城木馬玉葉京奈渦山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児繩山
 (注1) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。前回緊急事態宣言時は対象が全国の期間の平均。
 (注2) 2021年2月11日を除く。
 (出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。
 (出所) 国土交通省より大和総研作成

図表 8 : 第 3 次産業活動指数

